

今こそエコツーリズム・ワーケーション！

～中部山岳国立公園における取組も交えながら～



環境省中部山岳国立公園管理事務所
所長 森川政人

国立公園満喫プロジェクト

「明日の日本を支える観光ビジョン（2016年3月）」の柱の一つに国立公園が位置づけられる

2016年～ 国立公園満喫プロジェクト開始 【訪日外国人の国立公園利用者数】 490万人（2015年）→667万人（2019年）

国立公園の保護と利用の好循環により、優れた自然を守り地域活性化を図る

- ◆ 日本の国立公園のブランド力を高め、国内外の誘客を促進。利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし、自然を満喫できる上質なツーリズムを実現。
- ◆ 地域の様々な主体が協働し、地域の経済社会を活性化させ、自然環境の保全へ再投資される好循環を生み出す。

国立公園を核とした
地域循環共生圏の実現



国立公園の優れた
自然環境

最大の魅力は
自然そのもの

保護

利用

地域資源として
自然の価値向上

地域の産業の活性化
地域の持続的な発展

国立公園の磨き上げ

- ・景観改善（廃屋撤去等）
- ・ビジターセンター等の再整備
- ・公共施設の民間開放（カフェ等設置）
- ・体験プログラムの充実
- ・多様な宿泊サービス充実



国内外へのプロモーション

- ・オフィシャルパートナー企業との連携
- ・SNSや海外メディアの活用
- ・旅行博・商談会の参加
- ・旅行会社等との情報交換会の開催

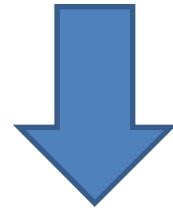


国際観光旅客税の活用による取組の強化

（2019年度～）

- ・利用拠点の滞在環境の上質化
- ・魅力あるコンテンツ充実（野生動物観光／グランピング／地場産品／ナイトハイ）
- ・日本政府観光局サイトへの一括情報サイト設置
- ・多言語解説の充実
- ・ビジターセンターの機能強化等

絶対に欠かせない視点①



エコツーリズム

国立公園とは

優れた自然の風景地を**保護**するとともに、その**利用の増進**を図ることにより、国民の**保健**、**休養**及び**教化**に資するとともに、**生物の多様性の確保**に寄与することを目的に指定するもの。



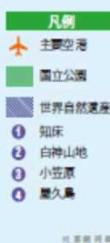
- 持続可能な地域資源、地域の魅力、地域の誇りのために。
- 観光などを活用した地域振興のために。地域の魅力を伝えるために。
- 地域の自然のめぐみを引き継いでいくために。

日本の国立公園



【九州】

26. 西海
27. 雲仙天草
28. 阿蘇くじゅう
29. 霧島錦江湾
30. 屋久島



【山陰・山陽・四国】

22. 山陰海岸
23. 足摺宇和海
24. 濑戸内海
25. 大山隠岐



- ## 【中部・近畿】
19. 白山
 20. 吉野熊野
 21. 伊勢志摩



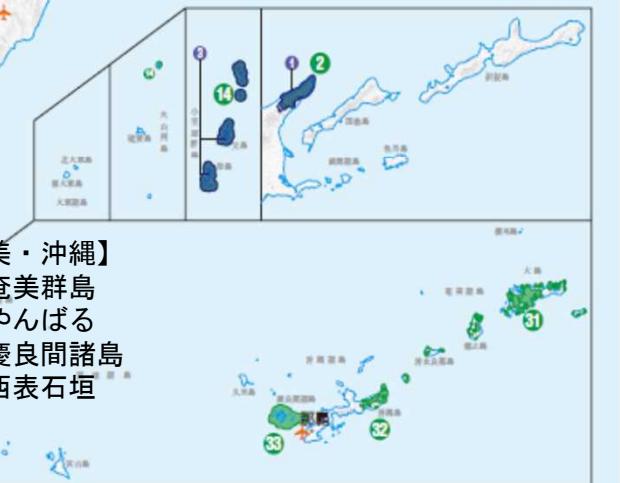
【北海道】

1. 利尻礼文サロベツ
2. 知床
3. 阿寒摩周
4. 釧路湿原
5. 大雪山
6. 支笏洞爺



【東北】

7. 十和田八幡平
8. 三陸復興
9. 磐梯朝日



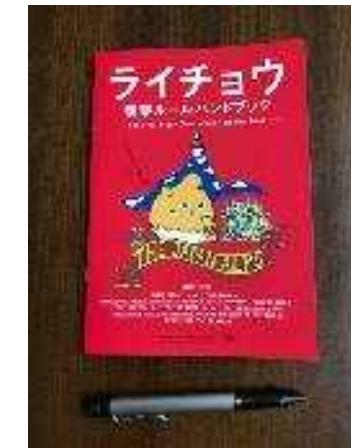
最大の魅力は自然そのもの

- ・国立公園の目的である保護と利用。それを好循環させる。**保護することで利用が進み、利用されることで保護が進む仕組みを作る。**

— カフェの食材の地産地消。売り上げの一部を環境保全へ。

— ガイド付きでしか入れない原生自然の世界。ガイド料の一部を使い環境整備。

— ライチョウ観察ルールを策定。今後に期待。



エコツーリズム の定義

【エコツーリズムの定義】 エコツーリズム推進法第2条第2項

エコツーリズムとは、観光旅行者が、自然観光資源について知識を有するものから案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動をいう。

エコツーリズムにおいて守るべき対象としている 【自然観光資源の定義】 同法第2条第1項

動植物の生息地又は生育地その他の自然環境に係る観光資源、自然環境と密接な関連を有する風俗慣習その他の伝統的な生活文化に係る観光資源。



自然・文化が特徴の観光地では必須の視点

持続可能な地域づくりのための基本的な考え方

サステイナブルツーリズム、GSTCなどなど

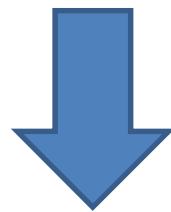
現在の環境省による支援状況



令和2年度生物多様性保全推進交付金(エコツーリズム地域活性化支援事業)の採択団体一覧

No	協議会名称	事業の概要
1	軽井沢町エコツーリズム推進協議会 (長野県)	今年度は、全体構想を策定し認定を目指すとともに、エコツーリズム事業区域として、海外観光客から人気が高くなっている信濃路自然歩道、旧碓氷峠遊覧歩道、中山道をエコツアーコースとするツアーアイテム造成についても検討していく。
2	岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会 (岐阜県)	乗鞍岳及び乗鞍山麓地域のあり方についての意見交換や情報共有を図るとともに、現状の課題の集約や整理、乗鞍岳や乗鞍に関連する魅力の洗い出し、エコツーリズム実施方法(ルールの検討、ガイド人材育成、モニタリング手法等)などの検討を行い、乗鞍山麓エコツーリズム推進全体構想の骨子となる要素を作成するとともに、内外に積極的な情報発信、PRを行う。
3	東近江市エコツーリズム推進協議会 (滋賀県)	全体構想策定に向けての策定委員会の開催、協議会の推進体制の協議検討(市の推進するエコツアーや認定の要件及び方法の検討)、ガイド人材育成講座の実施、エコツーリズムに関する人材の交流会の実施、プロモーション等PRや、各種会議、研修会等を開催する。
4	吉野川紀の川源流ツーリズム推進協議会 (奈良県)	源流ツーリズム推進の母体となる新組織設立支援等の源流ツーリズム推進支援業務、ガイド育成及び活動支援、体験学習資料作成を実施する。
5	健康の町かがみのエコツーリズム推進協議会 (岡山県)	自然観光資源調査や活用方法の検討、ガイド育成方法等の検討、ツアープログラムの作成、PRイベントへの出展、ファンクラブの運営等を実施する。
6	にちなんエコツーリズム推進協議会 (鳥取県)	資源調査、モニタリング調査の対象、手法、評価方法等の検討、ツアープログラムの作成、実施、ビジターセンター設置の検討、環境教育、先進地視察、人材育成、ルール作りや体制作りに向けた協議、広報活動を実施する。
7	西表島ツーリズム推進協議会 (鹿児島県)	全体構想の認定申請に向けた調整、エコツーリズムに関する島内外への各種PR活動やイベントの実施、地域住民への情報発信と協働体制の整備、ツアーや実践と観光部局との連携による受入体制の整備、先進地視察を実施する。
8	竹富町西表島エコツーリズム推進協議会 (沖縄県)	世界自然遺産推薦地である西表島ではフィールドの過剰利用、自然環境の劣化などが懸念されており、特定自然観光資源の指定の検討、全体構想の作成と認定申請を実施する。また協議会の公式ホームページを整備する。

絶対に欠かせない視点②



ワーケーション

国立公園等でのワーケーションの推進

- ✓ 国立公園において、テレワーク時代における、従来型の観光旅行以外の新しい利用価値を提供
- ✓ 地域にとっては新しい需要の取り込み、平日の観光地の活性化が期待（旅行に仕事を持ち込むではなく、長期滞在の実現と自然体験アクティビティなどエコツアーワークの活用）
- ✓ 豊かな自然の中で「遊び、働く」ことで、参加者にとってはクリエイティブな仕事につながる
- ✓ 地域とリモートワーカーの交流による地域課題の解決や新たなビジネスの創出にも

国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進

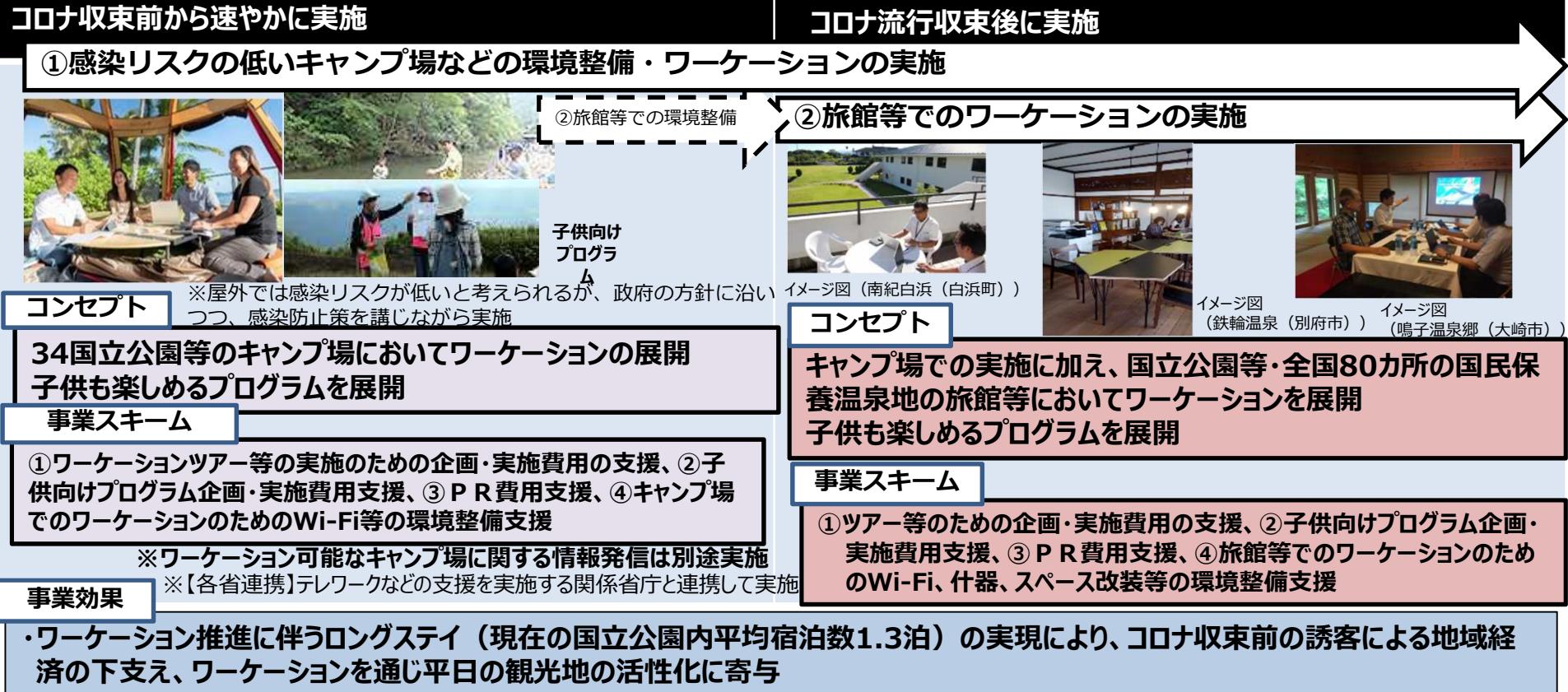
令和2年度補正予算

600百万円

背景・課題

- 国立公園等や温泉地でワーケーションが“可能であることを発信することで、国立公園等で遊び、働くという新たなライフスタイルを示す”。なお、新型コロナウイルスの流行以降、キャンプ場が更に人気となっており、温泉地の旅館でもワーケーション推進の機運が高まっている
- 新型コロナウイルスの流行拡大を受け、感染リスクの少ない自然の中でクリエイティブに仕事ができる場として国立・国定公園、温泉地の新たな魅力を打ち出す必要がある
- 加えて、大自然を有する国立公園等による心身のリフレッシュはもちろん、自粛により外遊びを控えていた子供達に国立公園等が『遊び場』としてアクティビティの提供が可能であることを発信し、社会の閉塞感の解消、旅行者増につなげ、地域経済を再生させる

事業概要





国立・国定公園への誘客の推進と収束までの間の地域の雇用の維持・確保

令和2年度補正予算
2,400百万円

<事業イメージ>

事業内容 1. 国立公園等において切れ目無く魅力的なツアー・イベントを準備・実施 (1,600百万円)

コンセプト

- 国立公園等の観光事業者の雇用の維持・確保
- 34国立公園等で200以上の新規ツアー等を企画・実施
- 約20万人の動員を想定



事業スキーム

- SDGs目標達成にも資するエコツーリズム等を行うエコツーリズム事業者やDMO等に対し、①ツアー企画・実施費用の支援（特にワーケーション事業と連携するもの等の先進的なツアーの支援）、②特にコロナ収束前の段階から、海岸清掃・修景伐採・歩道修繕といったツアー準備に関する支援を実施
※ DMO（観光地域づくり法人）
- 「国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進」事業とも連携して実施
※宿泊や一次交通（鉄道、航空等）などの支援を実施する関係省庁と連携して実施
※観光庁等により収束前から観光喚起がされる場合は、前倒しで実施できるよう準備

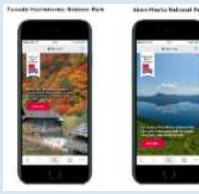


ガストロノミーウォーキング（500人程度参加）

事業内容 2. 国内外向け緊急プロモーションの実施 (800百万円)

コンセプト

- まずは国内向けに、国立公園等での遊び方といった魅力を伝えるプロモーションを実施。
その後、感染症の収束状況を踏まえ国外プロモーションを実施。



プロモーションイメージ
(ドローン撮影)



BBCに広告など

事業スキーム

- 各種メディア等を活用したデジタルマーケティング（バナー広告等）による国立公園等の魅力を訴求するプロモーション等を実施。
※ 1の実施が早まる場合は、それに合わせて前倒しで実施。観光庁、JNTOと連携して実施
※ サステイナブルツーリズムといったSDGs目標の達成にも資するツーリズムは世界的に注目されている



中部山岳国立公園でのワーケーション



小泉環境大臣もワークーションを率先実行(磐梯朝日国立公園)



環境省テレワーク実施要領の改定

- ✓ 本年7月20日、小泉大臣の指示により、環境省職員によるワーケーションの推進を目指し、以下の通りテレワーク実施要領を各省に先駆け改定。国立公園等においても情報管理が出来る場所に限って対象地に追加

<テレワーク実施場所（実施要領より抜粋）>

職員の自宅及び実家・実方（ただし、業務情報が家族や第三者の目に触れないような場所がある場合に限る。）及び環境省サテライトオフィス利用要領にて定めた場所並びに所属長が承認した場所（ただし、第三者の入退室が制限できる場所が確保できる場合に限る。）（以下「実施場所」という。）とします。

ワーケーションDays

連休の中日の9/23~25、11/2に
環境省内で呼びかけて実施



- 係員～課長級まで**10名以上**が全国の国立公園・温泉地でワーケーション。
- **9割**の職員が**モチベーション↑、心身健康↑**を実感。
- **7割**の職員が**業務効率↑**、残り3割も登庁時と同程度の効率で勤務。



十和田八幡平国立公園



吉野熊野国立公園

類型別の感想

文豪型

朝夕温泉、自然に囲まれリラックス

ファミリー型

業務をこなしつつ家族時間を満喫

チームビルディング型

同僚との親密性向上、特定議論に集中

地域協働型

現場の生の声を業務の参考に



阿寒摩周国立公園



富士箱根伊豆国立公園